

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS

The Society of Japanese Women Scientists



No.122 2018.3

I. 2018 年新春に寄せて

2018年の年頭に当たり、会員の皆様には恙なく新年をお迎えになられたことをお慶び申し上げます。今年2018年は、本会が設立されました1958年から数えて60年目となる節目の年に当たります。これを記念し、60周年記念学術大会の開催、本会会員のロールモデル集作成等を現在企画しております。これらのご案内につきましては、昨年10月初め会員の皆様にSJWSニュース121号をお送りした際、封筒にご案内のチラシを同封致しております。ロールモデル集の原稿は現在も受け付けておりますので、ご協力の程お願い致します。

また、これら記念事業の財政的基盤として、厚かしいことではありますが、ご寄付をお願い致しております。こちらにもニュース121号に趣意書ならびに振込用紙を同封致しました。ご協力の程、伏してお願い申し上げます。

さて、本年も年明け早々の1月7日(日)に、新春シンポジウムを東京にて開催致しました。今回は、新春“学術”シンポジウムと銘打ち、例年とは些か異なり、競争的研究資金獲得のための具体策に関する

一般社団法人 日本女性科学者の会 会長 功刀 由紀子

テーマで開催致しました。ポスターセッションも併設し、若手の方々には研究企画のシーズ発見や共同研究のネットワーク形成に繋がることも期待して企画しました。シンポジウムの詳細につきましては、5ページをご参照ください。また、2題設定致しました特別講演の内容については、本会ホームページ内の会員専用ページに掲載されておりますので、合わせてご参照の程お願い致します。

一昨年4月から女性活躍推進法が施行され、大学も含めた多くの事業所においては、女性登用に関する数値目標を明記したアクションプランを策定、公表しております。その結果、特に大学においては、女性優先あるいは女性限定と明記した教員採用公募が目立つようになりました。女性研究者にとって活躍の場が増え、環境改善が一步進んだと評価すべきでしょう。しかしながら、この状況を単なる数値合わせに終わらせないことが今後の重要な課題と考えられます。

昨年文科省において、現在の男女共同参画学習課を男女共同参画学習室に格下げし、「男女共同参画」を希薄にする改組が提案されました。本会はもとより、多くの反対により提案は取り下げられましたが、このような政府の動向に対し、我々女性研究者が多方面にわたって展開している力強い研究活動や実績を、社会に対しより積極的に情報発信すべきでしょう。会員の皆様と意見交換のできる場を、作って行きたいと考えております。

本会設立60周年にあたり、全国の会員の皆様には、5月27日(日)開催の会員定時総会、11月3日(土)開催の記念学術大会に是非ともご参加頂くとともに、本会に対する提言や活動のアイデア等お寄せ頂きますことを期待致しております。

目次

I. 2018年新春に寄せて.....	1
II. 夏の学校報告.....	2
III. かながわりケジョ・エンカレッジ プログラムについて.....	3
IV. 第12回日本女性科学者の会 新春学術シンポジウム開催報告.....	4
V. 会員の受賞報告.....	6
VI. 60周年記念事業委員会からのお知らせ.....	7
VII. 新春学術シンポジウム・懇談会風景.....	8

夏の学校の報告

男女共同参画学協会連絡会担当理事 中山榮子（昭和女子大学）

<夏の学校とは>

女子中高生が「科学技術に触れ」科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として 国立研究開発法人科学技術振興機構 女子中高生の理系進路選択支援プログラム「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」が開催された。このプログラムでは、2泊3日の合宿研修期間中、女子中高生が科学研究者・技術者、大学生・大学院生などとの交流を通じて、理系進路の魅力を知り、あるいは再確認し、理系に進もうという意思を高めることを目指している。

主催は独立行政法人国立女性教育会館（NVEC）であり、NVECを会場に2017年8月5日(土)～7日(月)に開催された。参加した女子中高生は104名、保護者・教員は21名であった。

SJWSは毎年このイベントに参加しており、下記実験教室とポスター展示をおこなった。

<サイエンスアドベンチャーⅠ ～「ミニ科学者になろう」～>

自然放射線の測定から入るエネルギー $E=mc^2$ と宇宙の神秘

「宇宙史を学びながら、 α 線や β 線を測定してみませんか。」とお声がけをし、希望した女子中高生と保護者、高校教員を対象に実験教室を実施した。最初に、現代宇宙論の概要、加速器の発展など基礎理論を学び、放射線測定方法を説明した。 α 線、 β 線の測定器は、日本原燃株式会社サイクル情報センターのご好意によりお貸しいただいた。屋内および屋外にて自然放射線の測定や、鉄板や紙などの遮蔽効果を体験した。最後に元素周期表を元に実験結果の解釈を試みた。また、理化学研究所よりニホニウムの資料をご提供いただき、元素周期表に書き込まれた『日本初の名前が付いた元素』を紹介した。実験教室は、中山理事、荒谷名誉会員、宮本理事、石川理事で担当した。



終了後アンケートを見ると、参加者の満足度は高く、放射線測定は初めてであったが実験を楽しんだ様子がうかがえた。また、「来年以降も、夏の学校に参加したい」、「この実験にもう一度参加したい」、「友人に勧めたい」といった意見が寄せられた。

<サイエンスアドベンチャーⅡ ～「研究者・技術者と話そう」～>

日本における女性科学者の活躍

「日本女性科学者の会では、医学・薬学・理学・工学などの広い分野で活躍している科学者を皆様にご紹介して、皆様のキャリア相談に乗ります。未来を拓くのはアナタです。進路決定にお悩みの方、医薬系から農理工系まで多分野の先輩がお待ちしています。お気軽に本会ブースへお立ち寄りください。」というご案内を出したところ、参加団体に医薬系が少なかったこともあり、多くの女子中高生がブースを訪れた。本会からは、功刀会長、大倉監事、野呂理事を中心に、相談に対応した。



（参考：「女子中高生夏の学校 2017」パンフレット）

『神奈川県と特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク(JNWES)とのリケジョ（理工系女子）促進に関する協定』について

JNWES 担当理事 近藤 科江（東京工業大学生命理工学院）

JNWESは、SJWSが法人会員として参加しているglobal networkで、2017年7月に、世界女性技術者科学者ネットワーク（INWES）のアジア地域部会（APNN）を、議長国代表組織として横浜で開催した。2日目「国際女性科学技術会議（GWST）」にて企画した『世界で輝け、理系女子！～あなたの夢が世界を変える～』がきっかけとなり、多くの高校や大学・自治体の男女共同参画組織との交流を持つことができた。その中のひとつ、神奈川県立かながわ男女共同参画センター(通称、かなテラス)から、「かながわりケジョ・エンカレッジプログラム」への協力依頼があった。SJWS内および、JNWESでも協議した結果、「リケジョ活性化に積極的に協力することは、本来の目的に即した活動」との合意が得られ、2017年10月25日に、神奈川県とJNWESが、『かながわりケジョ・エンカレッジプログラム協力協定』を締結し、プレスリリースされた。

12月に第1回プログラムが実施され、武井理事が参加した。SJWSでは、このようなリケジョ育成事業に派遣する講師のリストを作成し、次世代の女性技術者・科学者のキャリア形成と、中学生高校生向けに理工系への進路選択の支援活動を積極的に行っていく予定である。皆様の講師リストへの登録をお願いしたい。

第1回かながわりケジョ・エンカレッジプログラム参加報告

関東ブロック理事 武井 史恵（防衛医科大学）

このプログラムの第1回の講座が12月25日に聖園女学院にて行われた。当日は聖園女学院の中1から高3まで約20人が参加して、講演会とワークショップを実施した。初めての講座ということで、「かなテラス」からも数人の職員が見学に来られていた。

はじめに女性技術士の会理事長木村先生が、理系に関する全体のお話をされ、同会廣瀬先生、私が自己紹介をした。その後、3グループに分かれ、中学、高校生の将来なりたい職業、そしてその職業に就くには現在どういうことをすれば良いかについて話し合った。どのグループでも活発な議論が展開され、約50分の討論時間があっという間に過ぎてしまった。すべての学生が理系志望というわけでもなく、まだ漠然とした将来像をもっているだけの学生さんもいたが、少しでも将来の進路に役立てようとしてしっかり議論に参加していた。最後にそれぞれのグループで話し合った内容をまとめ、発表した。まだまだはっきりした目標がない学生へは、講師から色々と興味をもってチャレンジすること、大きな夢を持つことなどをアドバイスした。最も印象に残ったのは、中学、高校のカリキュラムが、自分の興味があることは何であるのか知るために用意されており、色々なことをちょっとずつつまみ食いができるようになってきているという事である。つまみ食いすることで、これ美味しいかもと思ったら、そこを深く追求したら良いという講師のアドバイスがなされていた。

中学、高校生の女子学生のために始まったこのプログラムだが、講師の私共にも非常に得るものが多く、勉強させて頂いた。また私共の頃より中高生がしっかり自分の将来を見ていることも驚きであった。リケジョだけではなく男子学生のリケダンにも有意義な会になるのではないかと思います会場を後にした。



代表的な感想

自分の夢に向かう不安がなくなりました！

私が持っていた古い概念が本当は違っていたことを改めて認識しました。

もっと自分の好きな事を追求し、深い知識を持ち、自分が誇れる人生にしたいです！

今回のセミナーを通して、自分が本当にやりたいことを見つけることができるようにしたいです。

理系の人々が周りにいなかったため、話を聞く機会がなく不安に思っていたのですが、話を聴けてよかったです。

『迷った時にはまず行動！』を実行してみようと思います。

日時：2018年1月7日(日) 13:00~16:00

場所：東京ウィメンズプラザ、視聴覚室

出席者：47名

プログラム

テーマ：競争的研究資金獲得に向けて

I. 会長挨拶

II. 特別講演

(1)座長：功刀 由紀子

講師：塩満 典子氏（理化学研究所仁科加速器研究推進室長）

「競争的研究資金獲得へのアプローチ ～研究企画のまとめ方から申請書の書き方まで～」

(2)座長：浜田 恵美子

講師：二階堂 知己氏（科学技術振興機構（JST）産学連携展開部

地域イノベーショングループ 副調査役兼マッチングプランナー）

「研究成果の『見られ方』『使われ方』とは？ ～成果の社会応用に向けた支援の活用方法～」

III. ポスター紹介（20件）

IV. ポスターセッション&相談コーナー&交流会（お茶会）

ポスターセッション タイトル

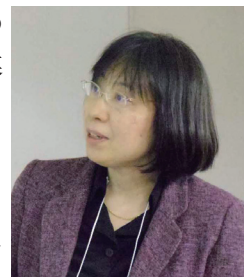
1. ウイルスセンサータンパク質LGP2は遺伝子発現ネットワークをゲノムワイドに制御する
2. キュリー夫人（マリー スクロドフスカ・キュリー）と科学教育
3. 蛍光分子とDNAでつくる蛍光増大型、蛍光減少型のPCRモニタリングシステム
4. Pepducin膜透過機構解明を目指した蛍光プローブの開発とBNCTへの応用研究
5. 肺がん細胞株を用いた休眠がん細胞標的薬剤の作用機構の解析
6. 「女性エンジニアが生き生き活躍できる社会」
7. 肺炎球菌下気道感染モデルマウスにおける漢方薬・補中益気湯の予防的感染制御効果に関する研究
（日本麻酔科学会研究助成対象課題）
8. 日本人大学生における健康診断データ異常値の男女比較検討
9. プロモドメインを標的としたエピジェネティック制御化合物の創製研究
10. マルチ生物発光レポーターシステムを用いたがん細胞と骨髄微小環境の相互作用解析
11. 神経変性疾患治療を指向した凝集性タンパク質分解誘導剤の開発
12. アミドアミノオキシド型低分子ハイドロゲル化・増粘剤の開発
13. グラミシジンAのライブラリー構築とスクリーニング法開発
14. 電子遷移脱離誘起法を用いた金属透過水素の可視化
15. ハスモンヨトウ抵抗性ダイズ系統ヒメシラズに対するハスモンヨトウの摂食選好性
16. Auナノ粒子による磁性薄膜の物理的特性の変調
17. 膵β細胞の分化・増殖と血糖値調節への応用
18. 酸化亜鉛単結晶を用いた高感度UVセンサの開発
19. 化学反応に伴う分子構造変化の時間分解計測
20. 活性部位に光反応基を導入したOSW-1フォトアフィニティープローブの開発



新春シンポジウム特別公演要旨

特別講演1：概要（講演資料は、会員ページで見ることができます）

国の競争的資金の総額は、毎年度約4300億円です。多くの研究者に資金獲得のための開かれたチャンスがあります。しかし、どんなに研究内容や計画が優れていても、応募制度の選択や申請書の書き方のポイントを知らないために、チャンスを逃すことも多くあります。皆様も、資金制度の内容や申請書の書き方を理解し、必要な研究費を獲得し、成果を挙げていきましょう。本講演では、これまで、科研費やJST競争的資金（CREST、A-STEP、イノベーション拠点、人材育成拠点等）の採択率の高い申請書を作成・支援してきた演者が、採択のための重要ポイントを解説します。最近の資金制度の傾向と対策を知り、研究資金の獲得チャンスを高めましょう。



塩満 典子 氏

特別講演2 概要（講演資料は、会員ページで見ることができます）

産学連携は、研究者の成果と、企業のニーズが出会い、お互いの特色を最大限活かした研究開発を通じて、社会が求めている「技術/製品」に仕上げる活動と言えます。しかし、多くの場合、研究と社会の接点はそれほど潤沢ではありません。

本プレゼンでは、研究が社会とつながるきっかけや場面について事例により説明します。今日では、こうしたきっかけ作りを支援する様々なメニュー、人材が、研究機関の内外に整備されており、これについても概説します。

研究者が、支援施策に関する知識を身につけることで、積極的に研究成果を発信し、外部資金を活用した研究開発に発展できるようにお手伝いできればと思っています。



二階堂 知己 氏

*参加いただいた方々の感想

- ◎今後も今回のような学術シンポジウムがあれば、ぜひ参加したいと思いました（高田悠里さん）
- ◎今後も女性科学者同士の交流に繋がるイベントをたくさん企画していただきたいと思います（山下博子さん）
- ◎研究費のしくみについて理解することができました。企業の人の話を聞いてみたいです（小川美香子さん）
- ◎今回の特別講演は大変役立ちました。今後も明日からの研究生活に役立つ講師招聘を希望します（山本眞由美さん）
- ◎初めて参加させていただきましたが、第一線でご活躍の先生方とのディスカッションは大変有意義でした。科研費獲得に向け、（より具体的な）必勝法、書き方を伺えたら有難いです。また、若手が次にどこを目指し、どのような研究費をねらうとよいかなどの参考のため、御先輩方のサクセスストーリーやアドバイスなども伺いしてみたいです（谷内出友美さん）

などなど会員の方、会員以外の方からも、良かったというご意見をいただくことができました。

*今年の抱負

- ◎積極的に研究の展開と研究費の確保を行いたいです（稲田明理さん）
- ◎様々な学会に積極的に参加し、他分野の研究にも目を向けていきたいと思います（山下博子さん）
- ◎酸化亜鉛単結晶の育成を成功させる！（阿部貴美さん）
- ◎産業への展開。企業との協力と基礎研究のバランスを考えて研究活動を行うこと（匿名さん）
- ◎皆様の発表、話を聞き、元気をもらいました。現在まとめている研究の論文発表を急ぎたいと思います（匿名さん）

講師の塩満先生からも、「研究資金獲得法の新しい本の執筆、仕事と介護の両立。論文を仕上げる。女性研究者を増やす、若手の支援。」と意欲的なお言葉をいただきました。

第12回日本女性科学者の会新春学術シンポジウム開催報告

東海・中部・北陸ブロック長 永澤秀子（岐阜薬科大学）

平成30年1月7日(日)、第12回日本女性科学者の会新春学術シンポジウムが、東京ウイメンズプラザ視聴覚室A・Bで開催されました。参加者47名のうち11名は非会員で、初めて参加された方も多く、また全体的に若手が目立つ活気ある会になりました。



今年は、東海・中部・北陸ブロックが担当しました。従来新春のイベントは、交流・懇談の場に重点を置いてきましたが、若手が遠方からでも参加する意欲をもってもらえるように、研究成果を紹介発表するポスター発表の場を設け、研究資金獲得への情報提供やアドバイスを盛り込んだ「学術シンポジウム」を企画しました。

特別講演には、「科研費採択に向けた効果的なアプローチ」（学文社）などの著者として知られ本会の会員でもある塩満典子氏、また文科省の競争的研究資金を配分する科学技術振興機構のマッチングプランナー二階堂知己氏にご登壇いただき、競争的資金のしくみの紹介から獲得に向けた注意点など、具体的な情報満載のお話をいただくことができました。会場からは盛んに質問が出され、講師のお二方には丁寧な回答をいただきました。

今回あらたに企画したポスター発表では、新たな共同研究マッチングや研究企画の萌芽を醸成することを目指して、20演題（化学7件、生物3件、医学3件、工学3件、農学1件、薬学1件、物理1件、科学教育1件）もの応募がありました。研究分野が多様だけでなく、大学院生から若手教員、ベテラン教員に到るまで多士済々な女性研究者が集まりました。

まず、ショートプレゼンテーションによる自己紹介と研究アピールを全員が行ってから、奇数番号、偶数番号の順にポスター前での討論を行いました。専門的なディスカッションに留まらず、研究を進める上での苦労話や、キャリアパスについての相談、グラント取得のためのアドバイス、果てはワークライフバランスの悩みに到るまで、どのパネルも絶え間なくディスカッションが続き、並行して、塩満講師、二階堂講師が個別の相談にも応じるなど、密度の濃い時間を過ごしました。

会場ではコーヒーや菓子の提供（会員の持ち込み多数）もあり、会員の交流もなごやかに行われました。

終了後のアンケートでは、「役に立った、参考になった」（30名）、「楽しかった、おもしろかった」（19名）、「知り合いができた」（5名）など、満足度の高いご意見をいただくことができました。今後も幅広い参加者の期待に応えるような企画を重ねていきたいと思います。ご協力くださった皆様にも、心から感謝申し上げます。

今年も皆さまの研究が発展し、実り多い1年になる事をお祈り申し上げます。

（東海・中部・北陸ブロック）

V. 会員の受賞報告

日本癌学会 女性科学者賞 第1回2017年（平成29年）

大谷 直子（大阪市立大学大学院医学研究科 教授）

「細胞老化および細胞老化随伴分泌現象の分子機構とそのがん微小環境における役割」

60周年記念事業のご案内

記念事業担当理事 中山榮子（昭和女子大学）

本会は、HPにもございますように「女性科学者の友好を深め、各研究分野の知識交流を図り、女性科学者の地位向上を目指すとともに、世界の平和に貢献すること」を目的として1958年4月に「日本婦人科学者の会」の名称で設立されました。本会の設立に際しましては、当時女性国際民主連合副会長の平塚らいてう女史、ノーベル賞受賞者の湯川秀樹博士を中心として設立された世界平和アピール七人委員会から多大なご支援を頂きました。1996年6月には名称を「日本女性科学者の会」と改め、2014年4月1日からは一般社団法人化し「一般社団法人 日本女性科学者の会」となりました。

本年を持ちまして、本会は設立60年となり、以下の60周年記念事業を計画しております。

- ①「ロールモデル集」の制作：会員の皆様全員のご協力をお願いいたします。
- ②小冊子「この10年の歩み」の編集：50周年から後のSJWSの歩みを、年表、写真、総会資料やニュースでまとめます。
- ③記念大会：11月3日(土祝)午後（場所未定）

60周年記念大会について

記念講演には、理化学研究所多細胞システム形成研究センター（CDB）網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダー 高橋政代氏（iPS細胞を使った目の難病(加齢黄斑変性)を治す新しい治療法などで注目を集めていらっしゃる方）と沖縄科学技術大学院大学（OIST）男女共同参画・人事担当副学長 Machi Dilworth氏（研究環境における無意識の偏見（Unconscious Bias）などで話題を集めていらっしゃる方）のお二人をお招きする予定であります。このほか、学術発表(ポスター発表)も計画しております。記念大会につきましては、詳細が固まりましたら、HPやMLでお知らせいたします。また、これら事業遂行のためのご寄付を受け付けております。HPへのバナー掲載などもご検討ください。

皆様と11月3日にお目にかかれることを楽しみにしています。

（60周年記念事業委員会）



オークラでしか叶えられない
ウェディングのかたち

OKURA WEDDING

SIMPLICITY & ELEGANCE

ご婚礼をお考えのおふたりに、素敵な特典をご用意しております。
ご家族やお知り合いのご紹介もお待ち申しあげております。

営業部 セールス課 青木 浩介 TEL(03)3224-6600 aokik@tokyo.hotelokura.co.jp

Hotel Okura
T O K Y O

VII. 新春シンポジウム・懇談会風景



❁ 事務局からのお知らせ ❁

「日本女性科学者の会 第5回総会および第22回奨励賞・功労賞贈呈式」が2018年5月27日(日) 学士会館で開催されます。

多くの会員の皆様が参加されますように、よろしくお願い申し上げます。

編 集：玉井 幸恵・山口 陽子・小川美香子・小杉 尚子・廣瀬 理沙

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©

事務局：〒453-8777 名古屋市中村区平池町4丁目60-6 愛知大学 名古屋一般教育研究室内

TEL：052-564-6151 FAX：052-564-6251 E-mail：sjws-office@sjws.info